様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	東洋医療専門学校
設置者名	学校法人大阪滋慶学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数	省令で定める基準単位数	配置困難
医療専門課程	歯科技工士学科	夜・通信	48 単位（1378 時間）	10 単位（240 時間）	
医療専門課程	救急救命士学科	夜・通信	80 単位（1991 時間）	10 単位（240 時間）	
	救急救命士学科	(夜)・通信	80 単位（1923 時間）	6 単位（135 時間）	
医療専門課程	鍼灸師学科	夜・通信	119 単位（2240 時間）	10 単位（240 時間）	
	鍼灸師学科	(夜)・通信	119 単位（2584 時間）	6 単位（135 時間）	
医療専門課程	柔道整復師学科	夜・通信	102 単位（1920 時間）	10 単位（240 時間）	
	柔道整復師学科	(夜)・通信	98 単位（1860 時間）	6 単位（135 時間）	
（備考）経過措置に基づき令和７年度までの授業時数も（　）内に記載					

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.toyoiryo.ac.jp/gakko/jyouhou/

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	東洋医療専門学校
設置者名	学校法人大阪滋慶学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ「役員・評議員名簿」 http://osaka.jikeigroup.net/zaimu

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	（前職） 社会福祉法人恩賜財団　大阪府済生会富田林病院長(2016.4.1～2026.3.31) （現職） 社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会富田林医療福祉センター長 (2026.4.1～)	2020.8.25～2029年度の定時評議員会の終結の時まで	業界の情報収集
非常勤	医療法人俊慈会 理事 (2011.4.1～)	2025.5.30～2029年度の定時評議員会の終結の時まで	業界の情報収集
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東洋医療専門学校
設置者名	学校法人大阪滋慶学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） ・11 月 学科長と副学科長が中心となり、年間授業計画（案）と時間割（案）を作成する。 ・12 月 担当教員でカリキュラム会議を実施し、重点課題について協議する。 ・1 月 重点課題を踏まえた上で、講師を選定する。 ・2 月 シラバスを作成する。シラバスの作成にあたり、授業の方法、授業の内容、授業計画（回数とスケジュール）、到達目標、成績評価の方法、実務教員であるかの事項は、全科目共通で記載することを必須としている。 ・3 月 講師会議を実施し、学校の教育方針、学生の動向、教育目標や計画について確認を行い、意見交換を行う。その他、連絡調整を行う。 ・4 月 新年度の初登校日のオリエンテーションにて、シラバスを配布し、説明を行う。 併せて、学校ホームページにて公開する。

授業計画書の公表方法	自校ホームページ https://www.toyoiryo.ac.jp/gakko/jyouhou/

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

学則において、成績評価、修了、卒業について、規定している。

学則・細則参考
（成績の評価）
第１２条
1.学生の成績は、学科試験、各学科模擬試験及び出席状況により評定する。
2.試験の成績は、科目ごとに 100 点をもって満点とし、60 点以上を合格とする。
3.授業を履修し、その試験に合格した者には所定の単位を与える。

（受験資格）
第１４条
学年を通じて所定の授業時間数の４分の３以上出席し、かつ学則に定める各学科試験・模擬試験及び実習に係る出席時間数を満たすものは、前期試験、後期試験及び卒業試験を受験することができる。

（補　習）
第１５条
上記の時間数に満たない者で３分の２以上出席した者は、必要な補習を受けて再試験を受験することができる。

（再試験）
第１６条
試験の成績が、合格点に満たない学科科目又は、上記の時間数に満たないもので必要な補習を受けた者については、１科目 2,000 円の受験料を添えて所定の届けを出し学校長の許可を得なければならない。

（ウ）再試験の成績判定
再試験で不合格があれば進級または卒業することができない。但し、学校長の指示のあった場合に限り再度再試験を行うことができる。

（追試験）
第１７条
病気その他やむを得ない理由により受験出来なかった学生については、１科目 2,000 円の受験料を添えて所定の届けを出し学校長の許可を得なければならない。但し、公休の場合は、この限りではない。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

学則において、ＧＰＡ（グレード・ポイント・アベレージ）を導入し、成績評価を行う。

学則参考
第 12 条の細則
必要に応じてグレード・ポイント・アベレージ制度を用いた下記の評価をする。

評価		標点（成績評価基準）	グレードポイント（GP）
秀	A	100～90点	4.0
優	B	89～80点	3.0
良	C	79～70点	2.0
可	D	69～60点	1.0
不可	F	59点以下	0.0

（2-1）グレード・ポイント(以下「ＧＰ」)は「A」、「B」、「C」、「D」及び「F」の各評価に対し、あらかじめ付与された等級でそれぞれ 4、3、2、1 及び 0 の順に付与する。

（2-2）グレード・ポイント・アベレージ(以下「ＧＰＡ」)は各科目にあらかじめ設定されている単位数に当該科目の成績に応じてＧＰを乗じ、これらの合計を履修登録単位数で除して得られる数値をいう。その数に小数点以下二位未満の端数があるときは、これを四捨五入する。

（2-3）ＧＰＡ算出の対象外とする科目は次のとおりとする。
1、本学以外で履修した科目を単位として認めたもの
2、各学科において、やむを得えない理由によりＧＰＡ算出ができない科目

客観的な指標の算出方法の公表方法	自校ホームページ https://www.toyoiryo.ac.jp/manage/wp-content/themes/ac_temp_3/_pdf/_jyouhou/shikenkitei.pdf

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を策定している。
学則において、進級、卒業について規定している。

□ ディプロマ・ポリシー（DP：卒業認定・学位授与の方針）
本校では、以下に示す能力および資質を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の課程を修了した学生に対し卒業を認め、専門士（医療専門課程）の称号を授与します。
1. 各学科における教科目標を通じて社会人基礎力が培われている
2. 業界との連携により職業人・業界人としての人間力、心構えを身につけている
3. 専門職に応じた知識・技術を身につけている
4. 異文化を理解する姿勢を持ち国際感覚を身につけている

学則参考
（進級・卒業）
第１９条
進級及び卒業認定については、学業成績及び出席状況を評定の上、各学科の進級･卒業委員会の議を得て学校長が行う。

（課程修了の認定）
第２８条
1. 第１２条に定める授業科目の成績評価に基づいて、学校長は課程修了の認定を行う。
2. 所定の修業年限以上在学し、課程を修了したと認めた者には、卒業証書（様式例１）
を授与する。

（称号の授与）
第２９条
前条により医療専門課程歯科技工士学科、救急救命士学科、鍼灸師学科、並びに柔道整復師学科を修了した者には、専門士（医療専門課程）の称号（様式例２）を授与する。

卒業の認定に関する方針の公表方法	自校ホームページ https://www.toyoiryo.ac.jp/gakko/jyouhou/

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	東洋医療専門学校
設置者名	学校法人大阪滋慶学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://osaka.jikeigroup.net/zaimu
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
医療		医療専門課程	歯科技工士学科		○	―	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	117 単位 (2825 時間)	59 単位 (903 時間)	5 単位 (160 時間)	53 単位 (1762 時間)		
			2825 時間/117 単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
90 人	46 人	0 人	5 人	41 人	46 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 学科長、副学科長が中心となり、年間授業計画(案)と時間割(案)を作成する。 担当教員でカリキュラム会議を実施し、重点課題について協議する。 重点課題を踏まえた上で、講師を選定する。 シラバスを作成する。シラバスの作成にあたり、授業の方法、授業の内容、授業計画（回数とスケジュール)、到達目標、成績評価の方法、実務教員であるかの事項は、全科目共通で記載することを必須としている。 講師会議を実施し、学校の教育方針、学生の動向、教育目標や計画について確認を行い、意見交換を行う。その他、連絡調整を行う。 新年度の初登校日のオリエンテーションにて、シラバスを配布し、説明を行う。 併せて、学校ホームページにて公開する。
成績評価の基準・方法

（概要）
学生の成績は、学科試験、各学科模擬試験及び出席状況により評定する。試験の成績は、科目ごとに 100 点をもって満点とし、60 点以上を合格とする。授業を履修し、その試験に合格した者には所定の単位を与える。

必要に応じてグレード・ポイント・アベレージ制度を用いた下記の評価をする。

評価		標点 （成績評価基準）	グレード ポイント （GP）
秀	A	100～90点	4.0
優	B	89～80点	3.0
良	C	79～70点	2.0
可	D	69～60点	1.0
不可	F	59点以下	0.0

グレード・ポイント(以下「ＧＰ」)は「A」、「B」、「C」、「D」及び「F」の各評価に対し、あらかじめ付与された等級でそれぞれ 4、3、2、1 及び 0 の順に付与する。

グレード・ポイント・アベレージ(以下「ＧＰＡ」)は各科目にあらかじめ設定されている単位数に当該科目の成績に応じてＧＰを乗じ、これらの合計を履修登録単位数で除して得られる数値をいう。その数に小数点以下二位未満の端数があるときは、これを四捨五入する。

卒業・進級の認定基準

（概要）
ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を策定している。
1. 各学科における教科目標を通じて社会人基礎力が培われている
2. 業界との連携により職業人・業界人としての人間力、心構えを身につけている
3. 専門職に応じた知識・技術を身につけている
4. 異文化を理解する姿勢を持ち国際感覚を身につけている

進級及び卒業認定については、学業成績及び出席状況を評定の上、各学科の進級･卒業委員会の議を得て学校長が行う。

学修支援等

（概要）
クラス担任による定期的な学生面談を実施している。学生に気になる変化が見られた場合は、即座に個別での面談を行うようにしている。プロの専任カウンセラーが対応するＳＳＣ（スチューデントサービスセンター）も設置している。学業成績不振の学生には、放課後や長期休みに補習授業を実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15 人 （100%）	0 人 （0%）	15 人 （100%）	0 人 （0%）

（主な就職、業界等）
歯科技工所、歯科医院、歯科材料メーカーなど

（就職指導内容）
キャリアセンターを中心とした専門的な就職指導体制がある。就職担当者がクラス担任の教員と連携し、学生の希望を個別に聞きながら、学生に合った就職先を紹介している。キャリアセンター主催の就職セミナーを早期から行い、就職に向けて高い意識を持てるような取り組みも行っている。

（主な学修成果（資格・検定等））
2025 年　歯科技工士国家試験合格率 100%（受験者 15 名、合格者 15 名）

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
46 人	5 人	10.9%

（中途退学の主な理由）
学業不振、体調不良、経済的理由、進路変更など

（中退防止・中退者支援のための取組）

独自の教育システム・「自己変革教育システムＰＩＢＡＰ(ピバップ)」により、段階的な教育を実施し、入学前から、目的意識・基礎学力・人間関係作りを意識した取り組みを行っている。
学業不振による退学者を出さないように、放課後や長期休みに補習授業を実施している。
クラス担任による定期的な学生面談を実施している。全教職員がカウンセリングの研修を受講するなど、学校全体で退学率低減に向けて取り組んでいる。

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
医療		医療専門課程	救急救命士学科		○	―	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	117単位 (2644時間)	80単位 (1266時間)	11単位 (170時間)	26単位 (1208時間)		
			2644時間/117単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
240人	248人	0人	11人	67人	78人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

学科長、副学科長が中心となり、年間授業計画(案)と時間割(案)を作成する。
担当教員でカリキュラム会議を実施し、重点課題について協議する。
重点課題を踏まえた上で、講師を選定する。
シラバスを作成する。シラバスの作成にあたり、授業の方法、授業の内容、授業計画（回数とスケジュール)、到達目標、成績評価の方法、実務教員であるかの事項は、全科目共通で記載することを必須としている。
講師会議を実施し、学校の教育方針、学生の動向、教育目標や計画について確認を行い、意見交換を行う。その他、連絡調整を行う。
新年度の初登校日のオリエンテーションにて、シラバスを配布し、説明を行う。
併せて、学校ホームページにて公開する。

成績評価の基準・方法

（概要）

学生の成績は、学科試験、各学科模擬試験及び出席状況により評定する。試験の成績は、科目ごとに 100 点をもって満点とし、60 点以上を合格とする。授業を履修し、その試験に合格した者には所定の単位を与える。

必要に応じてグレード・ポイント・アベレージ制度を用いた下記の評価をする。

評価		標点 （成績評価基準）	グレード ポイント （GP）
秀	A	100～90点	4.0
優	B	89～80点	3.0
良	C	79～70点	2.0
可	D	69～60点	1.0
不可	F	59点以下	0.0

グレード・ポイント(以下「ＧＰ」)は「A」、「B」、「C」、「D」及び「F」の各評価に対し、あらかじめ付与された等級でそれぞれ 4、3、2、1 及び 0 の順に付与する。

グレード・ポイント・アベレージ(以下「ＧＰＡ」)は各科目にあらかじめ設定されている単位数に当該科目の成績に応じてＧＰを乗じ、これらの合計を履修登録単位数で除して得られる数値をいう。その数に小数点以下二位未満の端数があるときは、これを四捨五入する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を策定している。

1. 各学科における教科目標を通じて社会人基礎力が培われている
2. 業界との連携により職業人・業界人としての人間力、心構えを身につけている
3. 専門職に応じた知識・技術を身につけている
4. 異文化を理解する姿勢を持ち国際感覚を身につけている

進級及び卒業認定については、学業成績及び出席状況を評定の上、各学科の進級･卒業委員会の議を得て学校長が行う。

学修支援等

（概要）

クラス担任による定期的な学生面談を実施している。学生に気になる変化が見られた場合は、即座に個別での面談を行うようにしている。プロの専任カウンセラーが対応するＳＳＣ（スチューデントサービスセンター）も設置している。学業成績不振の学生には、放課後や長期休みに補習授業を実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
74 人 （100%）	0 人 （0%）	62 人 （83.8%）	12 人 （　16.2%）
（主な就職、業界等） 消防本部、警察、自衛隊、病院、民間の救急搬送会社など			
（就職指導内容） キャリアセンターを中心とした専門的な就職指導体制がある。就職担当者がクラス担任の教員と連携し、学生の希望を個別に聞きながら、学生に合った就職先を紹介している。キャリアセンター主催の就職セミナーを早期から行い、就職に向けて高い意識を持てるような取り組みも行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 2025 年　救急救命士国家試験合格率 98.6%（受験者 74 名、合格者 73 名）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
249 人	15 人	6%
（中途退学の主な理由） 学業不振、体調不良、経済的理由、進路変更など		
（中退防止・中退者支援のための取組） 独自の教育システム・「自己変革教育システムＰＩＢＡＰ(ピバップ)」により、段階的な教育を実施し、入学前から、目的意識・基礎学力・人間関係作りを意識した取り組みを行っている。 学業不振による退学者を出さないように、放課後や長期休みに補習授業を実施している。 クラス担任による定期的な学生面談を実施している。全教職員がカウンセリングの研修を受講するなど、学校全体で退学率低減に向けて取り組んでいる。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
医療		医療専門課程	救急救命士学科		○	―	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	夜	103単位 (2466時間)	71単位 (1152時間)	6単位 (106時間)	26単位 (1208時間)		
			2466時間/103単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120人	130人	0人	11人	67人	78人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

学科長、副学科長が中心となり、年間授業計画(案)と時間割(案)を作成する。
担当教員でカリキュラム会議を実施し、重点課題について協議する。
重点課題を踏まえた上で、講師を選定する。
シラバスを作成する。シラバスの作成にあたり、授業の方法、授業の内容、授業計画（回数とスケジュール)、到達目標、成績評価の方法、実務教員であるかの事項は、全科目共通で記載することを必須としている。
講師会議を実施し、学校の教育方針、学生の動向、教育目標や計画について確認を行い、意見交換を行う。その他、連絡調整を行う。
新年度の初登校日のオリエンテーションにて、シラバスを配布し、説明を行う。
併せて、学校ホームページにて公開する。

成績評価の基準・方法

（概要）

学生の成績は、学科試験、各学科模擬試験及び出席状況により評定する。試験の成績は、科目ごとに 100 点をもって満点とし、60 点以上を合格とする。授業を履修し、その試験に合格した者には所定の単位を与える。

必要に応じてグレード・ポイント・アベレージ制度を用いた下記の評価をする。

評価		標点 （成績評価基準）	グレード ポイント （GP）
秀	A	100～90点	4.0
優	B	89～80点	3.0
良	C	79～70点	2.0
可	D	69～60点	1.0
不可	F	59点以下	0.0

グレード・ポイント(以下「ＧＰ」)は「A」、「B」、「C」、「D」及び「F」の各評価に対し、あらかじめ付与された等級でそれぞれ 4、3、2、1 及び 0 の順に付与する。

グレード・ポイント・アベレージ(以下「ＧＰＡ」)は各科目にあらかじめ設定されている単位数に当該科目の成績に応じてＧＰを乗じ、これらの合計を履修登録単位数で除して得られる数値をいう。その数に小数点以下二位未満の端数があるときは、これを四捨五入する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を策定している。

1. 各学科における教科目標を通じて社会人基礎力が培われている
2. 業界との連携により職業人・業界人としての人間力、心構えを身につけている
3. 専門職に応じた知識・技術を身につけている
4. 異文化を理解する姿勢を持ち国際感覚を身につけている

進級及び卒業認定については、学業成績及び出席状況を評定の上、各学科の進級･卒業委員会の議を得て学校長が行う。

学修支援等

（概要）

クラス担任による定期的な学生面談を実施している。学生に気になる変化が見られた場合は、即座に個別での面談を行うようにしている。プロの専任カウンセラーが対応するＳＳＣ（スチューデントサービスセンター）も設置している。学業成績不振の学生には、放課後や長期休みに補習授業を実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
33 人 （100%）	2 人 （6.1%）	23 人 （69.7%）	8 人 （　24.2%）

（主な就職、業界等）
消防本部、警察、自衛隊、病院、民間の救急搬送会社など

（就職指導内容）
キャリアセンターを中心とした専門的な就職指導体制がある。就職担当者がクラス担任の教員と連携し、学生の希望を個別に聞きながら、学生に合った就職先を紹介している。キャリアセンター主催の就職セミナーを早期から行い、就職に向けて高い意識を持てるような取り組みも行っている。

（主な学修成果（資格・検定等））
2025 年　救急救命士国家試験合格率 97%（受験者 33 名、合格者 32 名）

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
126 人	8 人	6.3%

（中途退学の主な理由）
学業不振、体調不良、経済的理由、進路変更など

（中退防止・中退者支援のための取組）

独自の教育システム・「自己変革教育システムＰＩＢＡＰ(ピバップ)」により、段階的な教育を実施し、入学前から、目的意識・基礎学力・人間関係作りを意識した取り組みを行っている。
学業不振による退学者を出さないように､放課後や長期休みに補習授業を実施している。
クラス担任による定期的な学生面談を実施している｡全教職員がカウンセリングの研修を受講するなど、学校全体で退学率低減に向けて取り組んでいる。

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
医療		医療専門課程	鍼灸師学科		○	―	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	130単位 (2888時間)	104単位 (1876時間)		26単位 (1012時間)		
			2888時間/130単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
90人	83人	0人	9人	61人	70人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

学科長、副学科長が中心となり、年間授業計画(案)と時間割(案)を作成する。
担当教員でカリキュラム会議を実施し、重点課題について協議する。
重点課題を踏まえた上で、講師を選定する。
シラバスを作成する。シラバスの作成にあたり、授業の方法、授業の内容、授業計画（回数とスケジュール)、到達目標、成績評価の方法、実務教員であるかの事項は、全科目共通で記載することを必須としている。
講師会議を実施し、学校の教育方針、学生の動向、教育目標や計画について確認を行い、意見交換を行う。その他、連絡調整を行う。
新年度の初登校日のオリエンテーションにて、シラバスを配布し、説明を行う。
併せて、学校ホームページにて公開する。

成績評価の基準・方法

（概要）

学生の成績は、学科試験、各学科模擬試験及び出席状況により評定する。試験の成績は、科目ごとに 100 点をもって満点とし、60 点以上を合格とする。授業を履修し、その試験に合格した者には所定の単位を与える。

必要に応じてグレード・ポイント・アベレージ制度を用いた下記の評価をする。

評価		標点 （成績評価基準）	グレード ポイント （GP）
秀	A	100～90点	4.0
優	B	89～80点	3.0
良	C	79～70点	2.0
可	D	69～60点	1.0
不可	F	59点以下	0.0

グレード・ポイント(以下「ＧＰ」)は「A」、「B」、「C」、「D」及び「F」の各評価に対し、あらかじめ付与された等級でそれぞれ 4、3、2、1 及び 0 の順に付与する。

グレード・ポイント・アベレージ(以下「ＧＰＡ」)は各科目にあらかじめ設定されている単位数に当該科目の成績に応じてＧＰを乗じ、これらの合計を履修登録単位数で除して得られる数値をいう。その数に小数点以下二位未満の端数があるときは、これを四捨五入する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を策定している。

1. 各学科における教科目標を通じて社会人基礎力が培われている
2. 業界との連携により職業人・業界人としての人間力、心構えを身につけている
3. 専門職に応じた知識・技術を身につけている
4. 異文化を理解する姿勢を持ち国際感覚を身につけている

進級及び卒業認定については、学業成績及び出席状況を評定の上、各学科の進級･卒業委員会の議を得て学校長が行う。

学修支援等

（概要）

クラス担任による定期的な学生面談を実施している。学生に気になる変化が見られた場合は、即座に個別での面談を行うようにしている。プロの専任カウンセラーが対応するＳＳＣ（スチューデントサービスセンター）も設置している。学業成績不振の学生には、放課後や長期休みに補習授業を実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21 人 （100%）	1 人 （4.8%）	18 人 （85.7%）	2 人 （9.5%）

（主な就職、業界等）
鍼灸院、鍼灸整骨院、病院、クリニック、介護施設など

（就職指導内容）
キャリアセンターを中心とした専門的な就職指導体制がある。就職担当者がクラス担任の教員と連携し、学生の希望を個別に聞きながら、学生に合った就職先を紹介している。キャリアセンター主催の就職セミナーを早期から行い、就職に向けて高い意識を持てるような取り組みも行っている。

（主な学修成果（資格・検定等））
2025 年　はり師国家試験合格率 90.5%（受験者 21 名、合格者 19 名）
　　きゅう師国家試験合格率 95.2%（受験者 21 名、合格者 20 名）

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
84 人	9 人	10.7%

（中途退学の主な理由）
学業不振、体調不良、経済的理由、進路変更など

（中退防止・中退者支援のための取組）

独自の教育システム・「自己変革教育システムＰＩＢＡＰ(ピバップ)」により、段階的な教育を実施し、入学前から、目的意識・基礎学力・人間関係作りを意識した取り組みを行っている。
学業不振による退学者を出さないように、放課後や長期休みに補習授業を実施している。
クラス担任による定期的な学生面談を実施している。全教職員がカウンセリングの研修を受講するなど、学校全体で退学率低減に向けて取り組んでいる。

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
医療		医療専門課程	鍼灸師学科		○	―	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	夜	123単位 (2656時間)	101単位 (1828時間)		22単位 (828時間)		
			2656時間/123単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
90人	94人	0人	9人	61人	70人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

学科長が中心となり、年間授業計画(案)と時間割(案)を作成する。
担当教員でカリキュラム会議を実施し、重点課題について協議する。
重点課題を踏まえた上で、講師を選定する。
シラバスを作成する。シラバスの作成にあたり、授業の方法、授業の内容、授業計画（回数とスケジュール)、到達目標、成績評価の方法、実務教員であるかの事項は、全科目共通で記載することを必須としている。
講師会議を実施し、学校の教育方針、学生の動向、教育目標や計画について確認を行い、意見交換を行う。その他、連絡調整を行う。
新年度の初登校日のオリエンテーションにて、シラバスを配布し、説明を行う。
併せて、学校ホームページにて公開する。

成績評価の基準・方法

（概要）

学生の成績は、学科試験、各学科模擬試験及び出席状況により評定する。試験の成績は、科目ごとに 100 点をもって満点とし、60 点以上を合格とする。授業を履修し、その試験に合格した者には所定の単位を与える。

必要に応じてグレード・ポイント・アベレージ制度を用いた下記の評価をする。

評価		標点 （成績評価基準）	グレード ポイント （GP）
秀	A	100～90点	4.0
優	B	89～80点	3.0
良	C	79～70点	2.0
可	D	69～60点	1.0
不可	F	59点以下	0.0

グレード・ポイント(以下「ＧＰ」)は「A」、「B」、「C」、「D」及び「F」の各評価に対し、あらかじめ付与された等級でそれぞれ 4、3、2、1 及び 0 の順に付与する。

グレード・ポイント・アベレージ(以下「ＧＰＡ」)は各科目にあらかじめ設定されている単位数に当該科目の成績に応じてＧＰを乗じ、これらの合計を履修登録単位数で除して得られる数値をいう。その数に小数点以下二位未満の端数があるときは、これを四捨五入する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を策定している。

1. 各学科における教科目標を通じて社会人基礎力が培われている
2. 業界との連携により職業人・業界人としての人間力、心構えを身につけている
3. 専門職に応じた知識・技術を身につけている
4. 異文化を理解する姿勢を持ち国際感覚を身につけている

進級及び卒業認定については、学業成績及び出席状況を評定の上、各学科の進級･卒業委員会の議を得て学校長が行う。

学修支援等

（概要）

クラス担任による定期的な学生面談を実施している。学生に気になる変化が見られた場合は、即座に個別での面談を行うようにしている。プロの専任カウンセラーが対応するＳＳＣ（スチューデントサービスセンター）も設置している。学業成績不振の学生には、放課後や長期休みに補習授業を実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
27 人 （100%）	0 人 （0%）	17 人 （63%）	10 人 （　37%）

（主な就職、業界等）
鍼灸院、鍼灸整骨院、病院、クリニック、介護施設など

（就職指導内容）
キャリアセンターを中心とした専門的な就職指導体制がある。就職担当者がクラス担任の教員と連携し、学生の希望を個別に聞きながら、学生に合った就職先を紹介している。キャリアセンター主催の就職セミナーを早期から行い、就職に向けて高い意識を持てるような取り組みも行っている。

（主な学修成果（資格・検定等））
2025 年　はり師国家試験合格率 85.2%（受験者 27 名、合格者 23 名）
　　きゅう師国家試験合格率 81.5%（受験者 27 名、合格者 22 名）

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
87 人	3 人	3.4%

（中途退学の主な理由）
学業不振、体調不良、経済的理由、進路変更など

（中退防止・中退者支援のための取組）

独自の教育システム・「自己変革教育システムＰＩＢＡＰ(ピバップ)」により、段階的な教育を実施し、入学前から、目的意識・基礎学力・人間関係作りを意識した取り組みを行っている。
学業不振による退学者を出さないように、放課後や長期休みに補習授業を実施している。
クラス担任による定期的な学生面談を実施している。全教職員がカウンセリングの研修を受講するなど、学校全体で退学率低減に向けて取り組んでいる。

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
医療		医療専門課程	柔道整復師学科		○	―	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	161単位 (2955時間)	105単位 (1380時間)	37単位 (555時間)	19単位 (1020時間)		
			2955時間/161単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
180人	149人	0人	10人	48人	58人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

学科長・副学科長が中心となり、年間授業計画(案)と時間割(案)を作成する。
担当教員でカリキュラム会議を実施し、重点課題について協議する。
重点課題を踏まえた上で、講師を選定する。
シラバスを作成する。シラバスの作成にあたり、授業の方法、授業の内容、授業計画（回数とスケジュール)、到達目標、成績評価の方法、実務教員であるかの事項は、全科目共通で記載することを必須としている。
講師会議を実施し、学校の教育方針、学生の動向、教育目標や計画について確認を行い、意見交換を行う。その他、連絡調整を行う。
新年度の初登校日のオリエンテーションにて、シラバスを配布し、説明を行う。
併せて、学校ホームページにて公開する。

成績評価の基準・方法

（概要）

学生の成績は、学科試験、各学科模擬試験及び出席状況により評定する。試験の成績は、科目ごとに 100 点をもって満点とし、60 点以上を合格とする。授業を履修し、その試験に合格した者には所定の単位を与える。

必要に応じてグレード・ポイント・アベレージ制度を用いた下記の評価をする。

評価		標点 （成績評価基準）	グレード ポイント （GP）
秀	A	100～90点	4.0
優	B	89～80点	3.0
良	C	79～70点	2.0
可	D	69～60点	1.0
不可	F	59点以下	0.0

グレード・ポイント(以下「ＧＰ」)は「A」、「B」、「C」、「D」及び「F」の各評価に対し、あらかじめ付与された等級でそれぞれ 4、3、2、1 及び 0 の順に付与する。

グレード・ポイント・アベレージ(以下「ＧＰＡ」)は各科目にあらかじめ設定されている単位数に当該科目の成績に応じてＧＰを乗じ、これらの合計を履修登録単位数で除して得られる数値をいう。その数に小数点以下二位未満の端数があるときは、これを四捨五入する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を策定している。

1. 各学科における教科目標を通じて社会人基礎力が培われている
2. 業界との連携により職業人・業界人としての人間力、心構えを身につけている
3. 専門職に応じた知識・技術を身につけている
4. 異文化を理解する姿勢を持ち国際感覚を身につけている

進級及び卒業認定については、学業成績及び出席状況を評定の上、各学科の進級･卒業委員会の議を得て学校長が行う。

学修支援等

（概要）

クラス担任による定期的な学生面談を実施している。学生に気になる変化が見られた場合は、即座に個別での面談を行うようにしている。プロの専任カウンセラーが対応するＳＳＣ（スチューデントサービスセンター）も設置している。学業成績不振の学生には、放課後や長期休みに補習授業を実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
37 人 （100%）	7 人 （　18.9%）	30 人 （81.1%）	0 人 （　0%）

（主な就職、業界等）
整骨院、鍼灸整骨院、病院、クリニック、介護施設など

（就職指導内容）
キャリアセンターを中心とした専門的な就職指導体制がある。就職担当者がクラス担任の教員と連携し、学生の希望を個別に聞きながら、学生に合った就職先を紹介している。キャリアセンター主催の就職セミナーを早期から行い、就職に向けて高い意識を持てるような取り組みも行っている。

（主な学修成果（資格・検定等））
2025 年　柔道整復師国家試験合格率 100%（受験 37 名、合格者 37 名）

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
143 人	19 人	13.3%

（中途退学の主な理由）
学業不振、体調不良、経済的理由、進路変更など

（中退防止・中退者支援のための取組）

独自の教育システム・「自己変革教育システムＰＩＢＡＰ(ピバップ)」により、段階的な教育を実施し、入学前から、目的意識・基礎学力・人間関係作りを意識した取り組みを行っている。
学業不振による退学者を出さないように、放課後や長期休みに補習授業を実施している。
クラス担任による定期的な学生面談を実施している。全教職員がカウンセリングの研修を受講するなど、学校全体で退学率低減に向けて取り組んでいる。

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
医療		医療専門課程	柔道整復師学科		○	―	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	夜	153単位 (2760時間)	94単位 (1350時間)	36単位 (540時間)	23単位 (870時間)		
			2760時間/153単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
90人	45人	0人	10人	48人	58人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

学科長・副学科長が中心となり、年間授業計画(案)と時間割(案)を作成する。
担当教員でカリキュラム会議を実施し、重点課題について協議する。
重点課題を踏まえた上で、講師を選定する。
シラバスを作成する。シラバスの作成にあたり、授業の方法、授業の内容、授業計画（回数とスケジュール)、到達目標、成績評価の方法、実務教員であるかの事項は、全科目共通で記載することを必須としている。
講師会議を実施し、学校の教育方針、学生の動向、教育目標や計画について確認を行い、意見交換を行う。その他、連絡調整を行う。
新年度の初登校日のオリエンテーションにて、シラバスを配布し、説明を行う。
併せて、学校ホームページにて公開する。

成績評価の基準・方法

（概要）

学生の成績は、学科試験、各学科模擬試験及び出席状況により評定する。試験の成績は、科目ごとに 100 点をもって満点とし、60 点以上を合格とする。授業を履修し、その試験に合格した者には所定の単位を与える。

必要に応じてグレード・ポイント・アベレージ制度を用いた下記の評価をする。

評価		標点 （成績評価基準）	グレード ポイント （GP）
秀	A	100～90点	4.0
優	B	89～80点	3.0
良	C	79～70点	2.0
可	D	69～60点	1.0
不可	F	59点以下	0.0

グレード・ポイント(以下「ＧＰ」)は「A」、「B」、「C」、「D」及び「F」の各評価に対し、あらかじめ付与された等級でそれぞれ 4、3、2、1 及び 0 の順に付与する。

グレード・ポイント・アベレージ(以下「ＧＰＡ」)は各科目にあらかじめ設定されている単位数に当該科目の成績に応じてＧＰを乗じ、これらの合計を履修登録単位数で除して得られる数値をいう。その数に小数点以下二位未満の端数があるときは、これを四捨五入する。

卒業・進級の認定基準

（概要）

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を策定している。

1. 各学科における教科目標を通じて社会人基礎力が培われている
2. 業界との連携により職業人・業界人としての人間力、心構えを身につけている
3. 専門職に応じた知識・技術を身につけている
4. 異文化を理解する姿勢を持ち国際感覚を身につけている

進級及び卒業認定については、学業成績及び出席状況を評定の上、各学科の進級･卒業委員会の議を得て学校長が行う。

学修支援等

（概要）

クラス担任による定期的な学生面談を実施している。学生に気になる変化が見られた場合は、即座に個別での面談を行うようにしている。プロの専任カウンセラーが対応するＳＳＣ（スチューデントサービスセンター）も設置している。学業成績不振の学生には、放課後や長期休みに補習授業を実施している。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
12 人 （100%）	0 人 （0%）	10 人 （83.3%）	2 人 （　16.7%）

（主な就職、業界等）
整骨院、鍼灸整骨院、病院、クリニック、介護施設など

（就職指導内容）
キャリアセンターを中心とした専門的な就職指導体制がある。就職担当者がクラス担任の教員と連携し、学生の希望を個別に聞きながら、学生に合った就職先を紹介している。キャリアセンター主催の就職セミナーを早期から行い、就職に向けて高い意識を持てるような取り組みも行っている。

（主な学修成果（資格・検定等））
2025 年　柔道整復師国家試験合格率 100%（受験者 12 名、合格者 12 名）

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
39 人	7 人	17.9%

（中途退学の主な理由）
学業不振、体調不良、経済的理由、進路変更など

（中退防止・中退者支援のための取組）

独自の教育システム・「自己変革教育システムＰＩＢＡＰ(ピバップ)」により、段階的な教育を実施し、入学前から、目的意識・基礎学力・人間関係作りを意識した取り組みを行っている。
学業不振による退学者を出さないように､放課後や長期休みに補習授業を実施している。
クラス担任による定期的な学生面談を実施している｡全教職員がカウンセリングの研修を受講するなど、学校全体で退学率低減に向けて取り組んでいる。

②学校単位の情報

ａ）「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料（年間）	その他	備考（任意記載事項）
歯科技工士学科	200,000 円	950,000 円	904,232 円	その他(実習費・総合演習費・教材費・校友会費・健康管理費など)
救急救命士学科	200,000 円	800,000 円	748,624 円	
救急救命士学科	200,000 円	600,000 円	648,624 円	
鍼　灸　師学科	200,000 円	1,000,000 円	726,042 円	
鍼　灸　師学科	200,000 円	700,000 円	723,989 円	
柔道整復師学科	200,000 円	1,000,000 円	755,672 円	
柔道整復師学科	200,000 円	700,000 円	755,672 円	
修学支援（任意記載事項）				

ｂ）学校評価

自己点検評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） 毎年、自校ホームページにて公開 https://www.toyoiryo.ac.jp/gakko/jyouhou/		
第三者評価の基本方針（実施方法・体制）		
自己点検・評価結果の 11 項目について学校教職員以外の関係者による評価を行うため、学校関係者評価委員会を開催する。自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。		
第三者評価の委員		
所属	任期	種別
船木デンタルラボ　代表	2023.4.01～ 2027.3.31（任期更新）	保護者
医療法人徳洲会　宇治徳洲会病院	2024.4.01～ 2027.3.31（任期更新）	卒業生
箕面市消防本部　通信係長	2025.4.01～ 2026.3.31（任期終了）	卒業生
よしゆき鍼灸院　院長	2022.4.01～ 2026.3.31（任期終了）	卒業生
WAFA 鍼灸整骨院	2025.4.01～ 2027.3.31（任期更新）	卒業生
有限会社おおえのきトータルヘルスケア　職員	2024.4.01～ 2027.3.31（任期更新）	卒業生
大阪府立寝屋川高等学校元准校長	2022.4.01～ 2027.3.31（任期更新）	高等学校
TC デンタル　代表	2025.4.01～ 2027.3.31（任期更新）	企業等 （歯科技工士学科）
株式会社 DL-WORLD 代表取締役会長	2024.4.01～ 2027.3.31（任期更新）	企業等 （歯科技工士学科）

関西医科大学総合医療センター 救命救急センター　救命士長	2026.4.01～ 2027.3.31（新任）	企業等 （救急救命士学科）
社会医療法人 純幸会 関西メディカル病院 EMT 科顧問	2023.4.01～ 2026.3.31（任期終了）	企業等 （救急救命士学科）
吹田市消防本部　西消防署　署長	2026.4.01～ 2027.3.31（新任）	企業等 （救急救命士学科）
大阪府鍼灸師会　理事	2025.4.01～ 2027.3.31（任期更新）	企業等 （鍼灸師学科）
坂東鍼灸院本院　ROYAL SALON 副院長	2026.4.01～ 2027.3.31（新任）	企業等 （鍼灸師学科）
まさ鍼灸院　院長	2025.4.01～ 2027.3.31（任期更新）	企業等 （鍼灸師学科）
公益社団法人大阪府柔道整復師会　副会長	2025.4.01～ 2027.3.31（任期更新）	企業等 （柔道整復師学科）
かなくぎ整骨院　院長	2025.4.01～ 2027.3.31（任期更新）	企業等 （柔道整復師学科）
第三者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.toyoiryo.ac.jp/gakko/jyouhou/		
備考		
第三者評価は未実施のため、評価の基本方針および評価の委員については学校関係者評価の内容を記載している。 第三者評価は令和 9 年実施予定		

ｃ）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://www.toyoiryo.ac.jp/

備考 この用紙の大きさは，日本産業規格Ａ４とする。